

山本健吉編

最新俳句歲時記

秋

文藝春秋刊

最新俳句歳時記 秋

昭和四十六年九月一日 第一刷
昭和五十二年四月二十五日 第十一刷

編著者 山本健吉

発行者 桧原雅春

発行所 文藝春秋

東京都千代田区紀尾井町三
郵便番号 一〇二

印刷 精興社

製本 矢嶋製本

製函 加藤製函

万一落丁乱丁の時はおとりかえいたします

© KENKICHI YAMAMOTO

Printed in Japan

編纂の方針

一、本書は春の部・夏の部・秋の部・冬の部・新年の部の五冊をもって完結する。

一、四季各冊は、従来時候・天文・地理・人事・宗教・動物・植物という分類法、あるいはそれに類似の分類法を廃し、三月にわたるものと初・仲・晩との四部門に分けた。それは従来の分類法における初春の季語と晩春の季語とを、無差別に春の季語として並列するような曖昧さを避けたからである。ただし、二月にわたるものは、それぞれの場合の判断に従った。

一、季語の分類は次の原則による。

春 立春（二月四日）から立夏の前日（五月五日）まで
夏 立夏（五月六日）から立秋の前日（八月七日）まで
秋 立秋（八月八日）から立冬の前日（十一月六日）まで
冬 立冬（十一月七日）から立春の前日（二月三日）まで

この原則を立てることによって、本書では、たとえば「メーデー」（五月一日）と「八十八夜」（五月二、三日）とは、ともに晩春の季語となる。従来の歳時記は、「メーデー」を夏とし、「八十八夜」を春とするような愚かしい分類をやっていたのである。ただし「子供の日」（五月五日）は、端午の関係から初夏に分類しておいた。

一、各季の初・仲・晩の分類は、つぎの原則に従った。

初春（陽二月・陰一月） 立春（二月四日）から
啓蟄（陽三月・陰二月） 啓蟄（三月六日）から

仲春（陽三月・陰二月） 啓蟄（三月六日）から
清明の前日（四月四日）まで

晩春（陽四月・陰三月） 清明（四月五日）から
立夏の前日（五月五日）まで

初夏（陽五月・陰四月） 立夏（五月六日）から
芒種（陽六月・陰五月） 芒種（六月六日）から

小暑の前日（七月六日）まで

晩夏（陽七月・陰六月） 小暑（七月七日）から

立秋の前日（八月七日）まで

初秋（陽八月・陰七月） 立秋（八月八日）から

白露の前日（九月七日）まで

仲秋（陽九月・陰八月） 白露（九月八日）から

寒露の前日（十月七日）まで

晩秋（陽十月・陰九月） 寒露（十月八日）から

立冬の前日（十一月六日）まで

初冬（陽十一月・陰十月） 立冬（十一月七日）から

大雪の前日（十二月六日）まで

仲冬（陽十二月・陰十一月） 大雪（十二月七日）から

小寒の前日（一月四日）まで

晩冬（陽一月・陰十二月） 小寒（一月五日）から

立春の前日（二月三日）まで

ただし季節と年時とは正確に一致するわけではない。たとえば、「メーデー」が五月の行事であるのに晩春に分類されたり、「文化の日」が十一月の行事であるのに晩秋に分類されたりしているのは、それらがそれぞれ、立夏・立冬以前の行事だからである。

一、地方によって、陽暦で行なわれたり、陰暦（または月遅れ）で行なわれている行事は、分類上もっとも頭を悩ます問題である。たとえば「七夕」「盂蘭盆」などは、東京では盛夏の季節を持つが、京阪地方ははじめ多くの地方では昔どおりの初秋の季節を持つ。本書では、それらは地方生活の上での季節の滲透度の深さと、伝統的に担っている行事の意味とを考えて初秋の部に入れた。同様の考えから、「雛祭」は晩春、「端午」は仲夏に入れた。そのため、「雛祭」と「桃の花」、「端午」と「菖蒲」、「七

夕」と「天あまの川がわ」などが、別の季に分類されるという不合理は消滅する。ただし、灌仏（仏生会・花祭）は、東北地方などを除いて全国的に陽春四月の行事と化してしまった大勢に抗しがたく、古来卯月八日の行事として初夏の季を持っていたのを、今は桜花のさかりの行事として晩春の季に置かざるをえなかったのである。

一、新年の部を独立させたのは、都会地の大部分は新暦に従いながら、農村では依然として旧正月をやっていることから、新年行事を冬の部に入れても春の部に入れても、不合理なことが起るからである。たとえば、農村だけでしか行なわれない新年行事を、冬の部に入れることもできないし、都会で主として行なわれる新年行事を、春の部に入れるのも変である。だがその双方とも、新年季題として並列されることは、不自然ではない。そのことが、新年の部を独立させた最大の理由である。同様の理由で、冬の部には初・仲・晩のほかは、歳末の項を設けた。そこには明らかに歳末の意味を帯びた、たとえば「煤払」「年の市」「餅搗」「除夜」などの季語だけを集め、従ってそれは地域によってあるいは新暦十二月（仲冬）、あるいは旧暦十二月（晩冬）に行なわれる行事なのである。

二、三月にわたるものと初・仲・晩の四部門では、おおよそ時節・気象・暦日・山野・園芸・水沢・海洋・田園・行事・飲食・遊戯・雑などに分類したが、これは読者の検索の便をはかったもので、それらの項目は本文でなく、各ページの柱に示した。

一、「田植時」「菫すまの野」「罌粟けし若葉」「芍薬しやくやくの芽」「鶯うの巢」などといったものは、季題として独立させる必要がなく、それぞれ「田植」「菫」「草若葉」「草の芽」「鳥の巢」などの季題に、傍題として含めておけば十分である。その点から、従来の歳時記に見られた季題の乱立を、できるだけ統合し集中する方針を立てたが、その原理を無制限に適用したわけではない。たとえば、「花」と「花見」、「月」と「月見」、「稻」と「稻刈」、「鷹たか狩」、「鷹」と「蝶」と「初蝶」などは、それぞれを独立した季題と

して立てている。要はそれらが独立季題（または季語）として堪える重さを持っているかどうかにかかっている。

一、季題・季語は一、二の例外はあるが、日本本土の季節現象を選んだ。また、現在すでにうち絶えた行事の多くは、廃題として整理した。もっとも作句例がこれまでも現在でも見られる「絵踏」「寒食」「曲水」「薬喰」などの季題は、残しておいた。「亀鳴く」「蚯蚓鳴く」「鰯魚を祭る」などの空想的季題も、作句されているかぎり残した。

一、山・野・川・池・沼・湖・海・潮・波・水・田・畑などの地理上の名目、あるいは暁・朝・昼・夕・宵・夜などの時間上の名目に、四季の言葉を冠して、「春の水」「秋の朝」などの季題がやたらに立てられているが、これも季題として妥当と思われるもの、例句が数多く作られているものだけに整理した。「春の水」が季題として妥当性を持っているからといって、「夏の水」「秋の水」などが、すべて妥当であるという理由にはならない。また「春の日」「秋の日」などは、従来分類上の必要から、時候と天文とに重出しているが、本書ではその必要を認めなかった。また二十四気は暦の上で、季節の移り変りのポイントをなすものだから、すべて季題として採用したが、七十二候になると、あまりにこまかく区分され、日本の季節の実情にそぐわない面もあるので、少数（たとえば「魚氷に上る」「鰯魚を祭る」など）を除いて、採用しなかった。だが、新年の部の付録に、二十四気、七十二候表をつける。

一、年中行事は生活に関係の深いものに重点を置き、神社の祭礼などは、古来著名のもの、印象の強いものに重点を置いた。忌日は、現実には修忌のことがあるもの（利休忌・蓮如忌・大石忌など）を主とし、それにたとえ特定の行事が行なわれていなくても、季題としての趣きの深いもの（業平忌・西行忌・蟬丸忌など）を加えた。忌日は、歳時記では無制限に膨張しうる部分であって、「チエーホフ忌」「ニーチエ忌」にまで及べば、古今東西の有名な忌日はすべて包含しなければならなくなる。そのような煩雑さは、本書では取らなかった。ただし、そのかわ

りに、新年の部の付録に、著名な人の「忌日表」をつけることにした。

一、解説は平易・簡潔・正確をむねとした。作句者の便宜をも顧慮して、季題の左側に歴史的かなづかいをルビで示した。ただし漢字の音は、これを除く。たとえば「光悦忌」はとくに左側に「くわうえつき」と示さない。

一、解説の文のなかに、ゴシック活字で示したものは傍題ならびに異名・種類である。傍題・異名・種類はできるだけ多くを網羅した。「参照」として示したものは、その季題と関連を持つ他の季題を示したものである。

一、例句は古句より現代にわたり、ことに現代のものを多く挙げた。採用標準は、例句として妥当なものであることを原則とし、またできるだけ多くの流派の句にわたることを心がけた。だが適当な例句が見つからなかった場合、かならずしもこの標準に厳密に従ったとは言えないものもある。例句は原作を尊重して、新かなづかいによらなかった。例句のない季題・季語も、当然例句が現われるべきことを予期して、あえて掲げた。

一、各巻に、目次のほかに、五十音順の索引をつけたが、新年の部には、全巻にわたっての季題ならびに主要な傍題・異名の総索引をつけることにした。

目次

編纂の方針	一
三秋	二
初秋	二七
仲秋	三二
晩秋	三六
音順索引	三七
あとがき	四一

三秋

時節	三
秋色	三
爽か	三
秋気	四
秋澄む	四
身に入む	四
秋麗	五
秋晴	五
秋高し	六
秋の日	六
釣瓶落し	七
秋の暮	七
秋の宵	元
秋の夜	元

夜長	三
気象	三
秋の空	三
秋旱	三
秋の雲	三
鰯雲	三
秋風	三
色なき風	四
秋の聲	五
爽籟	五
月	五
二日月	六
三日月	六
星月夜	六
宵闇	六
秋の闇	六
秋の雨	六
秋の村雨	六
秋湿	四
秋陰	四
稻妻	四
霧	四
露	四
山野	四
秋の山	四

わ れ か ら 虫	秋 の 潮 虫	秋 の 海 虫	海 洋 虫	川 苔 虫	蘆 虫	荻 虫	鮭 虫	下 り 築 虫	落 虫	江 虫	黄 瀬 魚 虫	鰻 虫	鳴 虫	秋 の 川 虫	水 澄 む 虫	秋 の 水 虫	水 沢 虫	芭 蕉 虫	葉 鶏 頭 虫	鶏 頭 虫	菊 虫	花 園 虫	秋 園 虫	園 芸 虫	木 の 實 虫	葛 虫	牡 蒿 虫	秋 薊 虫
--------------------------------	---------------------------	---------------------------	----------------------	----------------------	-----------------	-----------------	-----------------	---------------------------	-----------------	-----------------	---------------------------	-----------------	-----------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	----------------------	----------------------	---------------------------	----------------------	-----------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------------	-----------------	----------------------	----------------------

枝 豆 虫	俵 編 虫	夜 な べ 虫	鹿 垣 虫	鹿 火 屋 虫	威 銃 虫	添 水 虫	鳴 子 虫	案 山 子 虫	田 守 虫	入 内 雀 虫	稻 雀 虫	稻 虫	秋 耕 虫	秋 の 田 虫	田 園 虫	尾 花 蛸 虫	わ ら さ 虫	太 刀 魚 虫	鱈 虫	小 鱈 虫	鯉 虫	裂 鱈 虫	鯛 虫	宗 太 虫	秋 經 虫	秋 鯖 虫	秋 鱈 虫	煮 虫	鰻 虫	鰻 虫
----------------------	----------------------	---------------------------	----------------------	---------------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------------	----------------------	---------------------------	----------------------	-----------------	----------------------	---------------------------	----------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	-----------------	----------------------	-----------------	----------------------	-----------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-----------------	-----------------	-----------------

芋	二〇	甘藷	二〇	自然薯	二〇	薯蕷	二〇	零餘子	二〇	何首烏	二〇	秋茄子	二〇	南瓜	二〇	冬瓜	二〇	絲瓜	二〇	夕顔の實	二〇	瓢	二〇	よまき胡瓜	二〇	よまき菜豆	二〇	オクラ	二〇	生薑	二〇	唐辛	二〇	鬼灯	二〇	とんぶり	二〇	若煙草	二〇	薄荷の花	二〇	秋果	二〇	梨	二〇	青蜜柑	二〇	酸橘	二〇	木天蓼	二〇	行事	二〇	美術展覽會	二〇	運動會	二〇	秋祭	二〇	秋遍路	二〇
---	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	-----	----	-----	----	----	----	----	----	----	----	------	----	---	----	-------	----	-------	----	-----	----	----	----	----	----	----	----	------	----	-----	----	------	----	----	----	---	----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	-------	----	-----	----	----	----	-----	----

初秋

衣食住	二〇	秋袷	二〇	新絹	二〇	砧	二〇	秋の蚊帳	二〇	秋簾	二〇	秋扇	二〇	秋團扇	二〇	秋の燈	二〇	秋の渴	二〇	夜食	二〇	夜學	二〇	雜	二〇	秋の翳	二〇	秋思	二〇	秋意	二〇	秋興	二〇	龍田姫	二〇	時節	二〇	初秋	二〇	八月	二〇	文月	二〇	殘暑	二〇	秋めく	二〇	新涼	二〇	桐一葉	二〇
-----	----	----	----	----	----	---	----	------	----	----	----	----	----	-----	----	-----	----	-----	----	----	----	----	----	---	----	-----	----	----	----	----	----	----	----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----

常山木の花	一五	蛭	一四	馬追	一四	轡蟲	一四	鉦叩	一四	草雲雀	一四	邯鄲	一四	松蟲	一四	鈴蟲	一四	蛭	一四	つくつく法師	一五	蛭	一六	殘る螢	一六	別鴉	一七	山野	一七	處暑	一七	八月盡	一七	二百十日	一七	曆日	一八	立秋	一八	盆の月	一八	盆東風	一八	送南風	一八	御山洗	一八	天の川	一八	流星	一八	初嵐	一八	萩の聲	一八	秋の初風	一八	氣象	一八
-------	----	---	----	----	----	----	----	----	----	-----	----	----	----	----	----	----	----	---	----	--------	----	---	----	-----	----	----	----	----	----	----	----	-----	----	------	----	----	----	----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	----	----	----	----	-----	----	------	----	----	----

野稗	一五	大文字草	一五	吉祥草	一五	めはじき	一五	藪からし	一五	弟切草	一五	釣鐘人參	一五	釣船草	一五	松蟲草	一五	草牡丹	一五	力草	一五	麝香草	一五	溝蕎麥	一五	溝萩	一五	矢の根草	一五	赤のまんま	一五	蓼の花	一五	水引の花	一五	星草	一五	秋撫子	一五	露草	一五	驚草	一五	吾亦紅	一五	田村草	一五	鵲花	一五	藤袴	一五	男郎花	一五	女郎花	一五	澤桔梗	一五	桔梗	一五	葛の花	一五	萩	一五
----	----	------	----	-----	----	------	----	------	----	-----	----	------	----	-----	----	-----	----	-----	----	----	----	-----	----	-----	----	----	----	------	----	-------	----	-----	----	------	----	----	----	-----	----	----	----	----	----	-----	----	-----	----	----	----	----	----	-----	----	-----	----	-----	----	----	----	-----	----	---	----

雀の稗 ^ひ	ぬめり草	鼠の尾	點突草 ^{てんつき}	鐵道草	防風の花 ^{ぼうふう}	棠梨 ^{やまなし}	山葡萄	野葡萄	蔓 ^{えびす}	男葡萄	淺間葡萄	トリツブ	苔桃 ^{こけもも}	蔓苔桃 ^{つるこけもも}	國芸	木 ^{もく}	芙蓉 ^{ふよう}	朝顏	夜顏	白粉花 ^{おしろいばな}	鳳仙花 ^{ほうせんか}	夜來香 ^{やらいこう}	鬱金 ^{うこん} の花	仙翁花 ^{せんおう}	辨慶草 ^{べんけい}	八代草 ^{やしろそう}	唐絲草 ^{からいとそう}	落葵 ^{つるむらさき}	カンナ	ペチュニア
一瓦	一瓦	一瓦	一瓦	一瓦	一瓦	一瓦	一瓦	一瓦	一瓦	一瓦	一瓦	一瓦	一瓦	一瓦	一瓦	一瓦	一瓦	一瓦	一瓦	一瓦	一瓦	一瓦	一瓦	一瓦	一瓦	一瓦	一瓦	一瓦	一瓦	一瓦

ジンジャの花	水沢・海洋	蓮の實	盆波	盆荒	田園	青無花果	青棗	青瓢	菜種蒔く	大根蒔く	茗荷の花	蕎麥の花	煙草の花	ホップ摘む	新小豆	新大豆	缸豆	隠元豆	藤豆	刀豆	西瓜	新生姜	麻の實	桃の實	盆栗	澁取	甘茶刈る	蟲送り
一六	一六	一六	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七

行事	一七	釜蓋朔日	一七	硯洗	一八	七夕	一八	願の絲	一八	貸小袖	一八	梶の葉	一九	梶の鞠	一九	眞菰馬	一九	眠流し	二〇	七日盆	二〇	盆一路	二〇	數方庭祭	二〇	六道參	二〇	盆花	二〇	草市	二〇	盆	二一	生見玉	二一	蓮の飯	二一	刺鯖	二一	迎火	二一	精靈火	二一	施餓鬼	二一	茄子の馬	二一	墓參	二二	盆竈	二二	中元	二二	盆休	二二	燈籠	二二	踊	二二	盆節季	二二	後の數入	二二
----	----	------	----	----	----	----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	------	----	-----	----	----	----	----	----	---	----	-----	----	-----	----	----	----	----	----	-----	----	-----	----	------	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---	----	-----	----	------	----

閻魔參	一九	送盆	一九	送火	一九	大文字	二〇	燈籠流	二〇	盆綱引	二〇	攝待	二〇	解夏	二〇	聖母被昇天祭	二〇	深川祭	二〇	終戰記念日	二〇	つと入	二〇	文覺忌	二〇	世阿彌忌	二〇	六齋念佛	二〇	愛宕火	二〇	地藏盆	二〇	清水星下り	二〇	吉田の火祭	二〇	二十六夜待	二〇	御射山祭	二〇	道灌忌	二〇	蘭盆勝會	二〇	宗祇忌	二〇	休暇明	二〇	震災記念日	二〇	相撲	二〇	盆狂言	二〇	飲食	二〇	新豆腐	二〇	燒米	二〇
-----	----	----	----	----	----	-----	----	-----	----	-----	----	----	----	----	----	--------	----	-----	----	-------	----	-----	----	-----	----	------	----	------	----	-----	----	-----	----	-------	----	-------	----	-------	----	------	----	-----	----	------	----	-----	----	-----	----	-------	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	----

仲秋

時節	仲秋	九月	葉月	冷やか	竹の春	氣象	颶風	野分	出水	高潮	やまじ	おしあな	鮭風	靑北風	雁渡し	富士の初雪	曆日	白露	八朔	二百二十日	初月	待宵	名月	月見	良夜
三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三四	三五	三六	三七	三七	三七	三七	三八	三八	三八	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九

無月	十六夜	立待月	居待月	臥待月	更待月	眞夜中の月	秋分	秋彼岸	龍淵に潜む	秋社	水初めて潤る	山野	燕歸る	蛇穴に入る	溢蚊	柳散る	初紅葉	薄紅葉	櫻紅葉	竹伐る	竹の實	山椒の實	藜の實	猿梨	龍膽	嫁菜の花	野菊	野塘高	濱菊	磯菊
三三	三四	三五	三五	三六	三六	三六	三七	三七	三七	三七	三八	三八	三八	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九

海洋	菱の實	田五加	眞菰の花	水沢	山楂子	茴香の實	芙蓉の實	芍藥の根分	牡丹の根分	緋衣草	模樣菟	風船葛	コスモス	岩蓮華	三七草	朝霧草	鍾馗蘭	蘭	烏頭	紫苑	秋海棠	園芸	曼珠沙華	山ぼくち	富士薊	時鳥草	蒼朮の花	思草
																												
	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二

秋蠶	新綿	桃吹く	草泊	絲瓜の水	胡麻刈る	葉唐辛子	亞麻の實	紫蘇の實	中拔大根	間引菜	貝割菜	芥菜蒔く	菊牛蒡	菊芋	ほど芋	ライマビーンズ	甘藷	高黍	玉蜀黍	稗	黍	粟	早稲	毛見	田園	海苔簀蒔す	初潮	不知火
.....																												
二四三	二四三	二四三	二四三	二四三	二四三	二四三	二四三	二四三	二四三	二四三	二四三	二四三	二四三	二四三	二四三	二四三	二四三	二四三	二四三	二四三	二四三	二四三	二四三	二四三	二四三	二四三	二四三	二四三